



子ども樹木博士 ニュース

2013 - 3

No. 50

子ども樹木博士認定活動推進協議会

巻頭言

一般会計になる国有林野事業

林野庁国有林野部業務課 国有林野総合利用推進室長 石澤 尚史

「国有林が一般会計になる。」、国有林野事業をよく知る人でなければこのニュースはよく知らないと思う。これまで国有林野事業は、税金だけで事業を実施する一般会計とは異なる「国が企業的経営をする「特別会計」」で実施されてきた。この国有林が一般会計になることは、昔、教科書にも載っていた「3公社5現業」の最後の組織が無くなるということだ。

国有林の会計を変えるための法律はすでに可決しており、この4月1日から一般会計（債務関係は特別会計）で運営されることになっている。では、なぜ一般会計にするのか、自然に親しむ方々にとって、どのような影響があるのか。

まず、一般会計にする理由は、公益的機能をより一層発揮するためである。これまでも森林の持つ土砂災害を防ぐ機能や快適な生活環境を保全する機能、生物の多様性など自然環境を保全する機能を発揮するために事業を進めてきたが、今後は民有林の森林の整備も一体的に実施することができるようになるなど、国有林が主体的に森林の機能発揮を進めることができる。

そして、自然に親しむために森林を活用されている方々への影響である。これまでも国有林は日本アルプスや大雪山などの深山奥山から、高尾山や箕面などの都市近郊林まで、自然豊かな森林において、多くの国民の活動を支えてきたが、今後はより一層、NPO等の団体が国有林を自らの企画で自由な視点から活用できるようになると考えている。具体的には、これまで

国や国と団体と共同で行ってきた環境教育や各種イベント等を民間団体との協定を通じて、国は活動する森林の提供やこれまで蓄積したノウハウの提供などの役割とし、実施は民間団体等が担うこととして、より団体等の自主性を重視した活動となるよう枠組みが変わることになる。このことにより、民間団体等の活躍の場面が広がり、森林が身近になるとともに様々な新たな取り組みが花開くのではないだろうか。

さらに、国有林の組織についても、森林管理署が管轄する国有林についての窓口となることは変わらないが、他方、これまであったセンターを森林の性格や業務に応じて再編し、「森林ふれあい推進センター」と「森林生態系保全センター」として、特に森林活動の場や生態系保護の役割を持った国有林について、よりわかりやすく、親しみやすく、まさに国民の森林として提供するための「センター」の取り組みを強化する予定である。

国有林は、子どもたちがこれまで以上にいろいろな森林にふれあい、知識と経験を兼ね備えたナチュラルリストとして活動を楽しむことができるよう積極的に支援していきたい。



コメツキムシ（米搗虫）

【目次】

巻頭言	一般会計になる国有林野事業	林野庁国有林野部業務課 国有林野総合利用推進室長 石澤 尚史	1
特集 I	春間近の里山で樹木と動物を観察	森林インストラクター 吉村 妙子	2
特集 II	子ども樹木博士認定活動の実施方法—その4：実践編—	森林インストラクター 柳原 高文	3
シリーズ	東南アジアの木々たち(19) —面白い刈込み(タイ編) — 自然と植物の観察会 TREECIRCLE	梅本 浩史	4
ア・ラ・カルト	木の名前から森林と人との関わりを知る		5
トピックス	子ども樹木博士リーダー等交流・研修会		6
事務局だより	平成 24 年度の子どもの樹木博士認定活動の実施状況等		8

特集 I

春間近の里山で樹木と動物を観察



森林インストラクター 吉村 妙子

今年の冬はかなり厳しい寒さが続きました。雪深い地方から春の花が咲き始めた地方まで様々な風景が見られる頃ですが、関東では落葉広葉樹林の冬景色の中にも少しずつ春の気配が感じられます。日足も長くなり、春間近ながら冬枯れの森ならではの動植物を楽しむには良い季節です。

先日は郊外に残る里山で観察をしました。保全地域として守られ、市民や地域の人々によって継続的な手入れや観察・調査が行われており、いくつもの谷戸田をぐるりと広葉樹林の丘が囲んだ里山です。昆虫や鳥などに詳しい方々に案内していただいたおかげで初めて見られた生き物も多く、とても充実した時間を過ごしました。

エノキの落ち葉の裏側にいたのは、オオムラサキの越冬幼虫でした。枯葉色で背中に4組の突起が出ています。この突起の数が3組なら近縁のゴマダラチョウで、幼虫の食草は同じくエノキです。4齢幼虫で越冬し、エノキの葉が展開する頃に再び動き始めて6~7月には成虫になり、紺色の翅を広げて飛翔し、甲虫類などに交じって大好きなクヌギの樹液を吸っていることでしょう。オオムラサキは環境省レッドリストの「準絶滅危惧種」に選定されているので、今すぐ絶滅する恐れはないものの生息環境の変化によっては絶滅危惧種に移る可能性があり、注意して見守っていく必要が



オオムラサキの越冬幼虫

あるといえます。エノキやクヌギのある森を大事にしたり、落ち葉の裏側で幼虫が冬越することから落ち葉掻きを控えることで復活できる場所があるかもしれません。

スギの木の皮をめくると、小さくて面白い生き物がありました。クモの仲間である「カニムシ」は3~4ミリの小さなサソリのような姿で、ルーペで眺めると確かにサソりに似た立派なハサミを持っています。このように樹皮の中の隙間を住処にしている種類もいれば、土壤中で生活する種類もいるようで、自分よりさらに小さい虫などを捕食するそうです。1本のスギが一つの生態系を作っていることに、あらためて感心しました。

鳥たちも里山を利用しています。上空を帆翔していたかと思うと獲物を見つけて急降下するのはタカの仲間のノスリです。枯れ木に止まって目を光らせているのはモズ。枯草の藪の中でジッと地鳴きしたのはアオジでしょうか。明るい草原や稲刈りしたままの田んぼではツグミが暢気そうに歩いています。

鳥といえば、今年は例年になく多種の鳥が見られるとのことで、春先までぜひバードウォッチングを楽しんでくださいと勧められました。一方、他で聞いたところでは、山では鳥が本当に少ないそうです。今年の厳しい寒さと山間地での多雪のため山には鳥の餌が少なく、平地に下りてきているのではという推測もあるとのこと。また2月半ばのこの日はヤマアカガエルの産卵が確認できてよい時期でしたが、全く見られませんでした。他の地域でもカエル類の動き出しが遅れているようで気になります。

今回の観察では樹木や動物の興味深い姿を楽しみ、また例年とは違う鳥やカエルの動向について考える機会にもなりました。子ども樹木博士も、観察会や調査も、続けることと、樹木とその周りの動植物のつながりに関心を寄せることで、さらに色々なものが見えてくる気がします。厳しい寒さを越えて森が動き出す季節はもうすぐ、今年の春は何が観られるか楽しみです。

特集Ⅱ

子ども樹木博士認定活動の実施手法

—その4: 実践編—



森林インストラクター 柳原 高文

子ども樹木博士認定活動を行っている団体にとって、「どうやったら参加者が集まるのだろうか?」という悩みが共通のようです。「学校にかけあってみたら?」、「地域の公民館と連携してみたら?」、「学習塾に提案してみたら?」など企画段階での努力、「継続が大切、年中行事として行っていく。」という年間計画から考える方法など様々です。しかし、参加者倍増計画?から考え方を少しもどして、「なぜ、子ども樹木博士認定活動を行うのか。」という原点に戻りたいと思います。

子ども樹木博士認定活動は、樹木の名前を知っているのかを競う認定試験とは異なります。認定ではなく、活動を通して樹木に親しみを持ってもらうことが目的です。そして、樹木に親しむことから自然の雄大さ、不思議さ、自然の中で活動する気持ちよさを感じることにへと発展していきます。

参加者を増やすことによる活動の広がり重要ですが、大人数になったばかりに、関心のない子どもたちの参加が活動の妨げになることも考慮する必要があります。私の経験では、放課後活動として子ども樹木博士認定活動を行ったとき、参加児童 50 名の中で話を聞く児童は数名、多くの児童は校庭を走り回ってふざけていました。もちろん最初から多くの子どもたちがふざけていたのではなく、一人が隣の子にちょっかいを出し、また隣の子・・・とふざけることが連鎖して収拾がつかなくなってしまいました。

校庭は自分たちのテリトリーであることから緊張感がなくなったことも原因の一つではないかと思いますが、最大の原因は参加する意志のない子どもまで参加させたことにあります。話に関心のない子どもにいくら話かけても無駄、まさしく馬の耳に念仏状態です!

このように、参加する意志のない子どもたちを「みんな一緒にやりましょうね。」と参加させることは無意味であり、本当に話を聞きたいという子どもたちの妨げになってしまいます。

大切なこと、それは活動の規模ではなく活動の内容です。どれだけ樹木に関心をもたせることができるか、そしてこの活動からどれだけ発展させることができるのかです。「あ〜今日は楽しかった!」、この言葉を定期的に聞くことができ、気がついてみたら成長している子どもたちの姿がある!ここにたどり着くことができれば活動の目的が達成できたと思います。もちろん、その子どもたちの人数が多いことに越したことはありません。

「小学校の時に子ども樹木博士認定活動に参加したことがきっかけになって、自然に興味をいただきました。それが森林インストラクターになった理由の一つです。」などと言う指導者が現れてくれたらいいですね。



ジャングルジムからハクモクレンの冬芽を観察する子どもたち!

シリーズ

東南アジアの木々たち (19)

—面白い刈込み(タイ編)—



自然と植物の観察会 TREECIRCLE 梅本 浩史

今回は、タイの王宮で出会った「風変わりな樹木の姿」を紹介します。古くから、日本とも関わりの深いタイ王国。王様は「プミポン国王」の名前でも知られるラーマ9世です。どんな時にも国民を大切に思い、タイの人々から深く信頼され、敬愛されるお人柄。

日本の皇室とも、公私ともにとっても親しいプミポン国王。その王家を象徴する建物の一つが、首都バンコクにある王宮「チャクリー宮殿」です。(現在、国王が実際に住んでおられる王宮は、チャットラダー宮殿と呼ばれる場所で、この王宮ではありません。)

さて、この王宮を取り囲むようにして置かれた木を

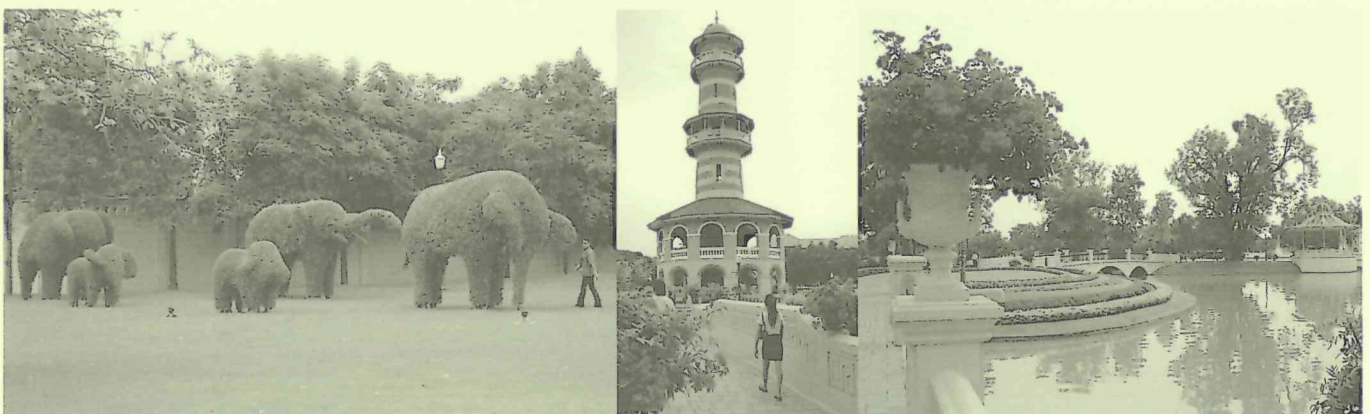
見て下さい。何やら不思議な姿形をした木々が見えますね。近寄ってよく見ると綺麗に丸く刈り込まれた常緑樹です。確認すると、幹が白っぽい木と、幹が黒っぽくて樹皮に割れ目が入る木の2種類が見られます。

黒っぽい方は、日本のウバメガシに非常によく似た木で、現地では「タコ (Tako)」と呼ばれるカキノキの仲間。幹の白っぽい方は「コイ (Khoi)」と呼ばれるクワ科の樹木でした。木なのに…「蛸? 鯉?」と思ってしまいますよね。コイは、古くは紙の原料として用いられた歴史があり、その若枝は歯ブラシとして用いられました。



タイで出会った刈り込みには、他にも面白い形状があります。タイの中部にある、宝石のように美しい

「バーンパイン離宮」。ここで見たものは、とってもユニークな「象さんの姿」をしていました☆



● ● ア・ラ・カルト ● ●

木の名前から森林と人との関わりを知る

木々には、それぞれ名前があります。そのネーミングの由来からも、古くから森林と人との関わっていたことを知ることができます。どのようなものがあるか、項目別に調べてみましょう。

◆味や匂いからのネーミング

- ◇ヤマコウバシ → 山に生える香ばしい木
- ◇クサギ → (葉を含む木全体が) 臭い木
- ◇ニガキ → (葉を含む木全体が) 苦い木
- ◇シキミ → 毒を含む種子 (悪しき実) を持つ木
- ◇エゴノキ → (果実の皮が) エゴい (えぐい) 木



◆見立てからのネーミング

- ◇ヤマボウシ → 花序を法師の坊主頭に、総苞を頭巾に見立てた。
- ◇ヤシャブシ → 堅果が集まった果序のでこぼこを夜叉に見立てた。
- ◇ハナイカダ → 葉を筏に例え、中央の花を筏を操る筏師に見立てた。
- ◇ハクウンボク → 白い花が垂れ下がる様子を白い雲がたなびくように見立てた。
- ◇ムラサキシキブ → 優美な紫色の果実を紫式部の名前を借りて表した。

◆木の性質からのネーミング

- ◇ミズキ → 木に水分を多く含んでいる。
- ◇アワブキ → 木の枝を燃やすと切り口から泡を吹く。
- ◇ナナカマド → 木を7回竈に入れても燃え残る。
- ◇クスノキ → 材や葉に多くの薬用成分 (くすり) が含まれる。
- ◇ソテツ → 木が弱った時に茎に鉄釘を刺すと元気に蘇る (蘇鉄)。



◆木の用途からのネーミング

- ◇エノキ → 器具の柄に使った木
- ◇ヒノキ → 火をおこすのに使った木
- ◇マユミ → 弓の材料に使った木
- ◇カマツカ → 鎌の柄 (つか) に使った木
- ◇ホオノキ → 葉で食物を包む (ほう) のに使った木



◆祭事・神事・故事からのネーミング

- ◇サカキ → 1年中常緑の「栄える樹」で、枝葉を神前に供えるので「榊」。
- ◇オガタマノキ → 木の枝を神前に供えて、神霊を招禱 (おき) 奉った。
- ◇トベラ → 木の枝を玄関の扉 (とびら) にさし、鬼除けのまじないに使った。
- ◇ウワミズザクラ → 亀甲占いをする時に、材の上に溝を彫って使った。
- ◇リョウブ → 飢饉の時の救荒植物として、法令で定めて (令法) 種子を配布した。

(社) 全国森林レクリエーション協会発行
「森林体験活動のガイドー森林環境教育のすすめー」から

★ ☆ トピックス ☆ ★

子ども樹木博士リーダー等交流・研修会

平成 24 年 12 月 2 日(日)、東京都文京区において、当協議会主催の「平成 24 年度子ども樹木博士リーダー等交流・研修会」を開催いたしました。本交流・研修会は「子ども樹木博士」活動の実施のきっかけづくりとスキルアップのための交流と研修の場として、既に活動を進めておられる方やこれから実施してみたいという方、興味や関心のある方などを対象とするものです。

当日は、快晴ながらこの季節一番と言われる冷え込みの中で、東北や関東近辺から総勢 23 人の参加により、午前 10 時から 12 時まで野外プログラムとして東京大学の小石川植物園での樹木ツアー、午後 1 時から 3 時 30 分まで屋内プログラムとしてプラザ・フォレスト（全林野会館）会議室において講師の先生による研修等を行いました。

概要は次のとおりです。（文責：事務局）

1 野外プログラム

小石川植物園で、インストラクターの引率により樹木ツアーを行いました。小石川植物園は東京大学の施設（約 16 ha）で、植物学の教育・研究を目的として約 4 千種の植物が植栽されており、珍しいものとしてニュートンのリンゴ、メンデルのブドウ、精子発見のイチヨウやソテツなどのほか、種類も大

きさもさまざまな樹木がたくさん見られます。

樹木ツアーでは次の 3 人の先生をそれぞれインストラクターとしてグループに分かれ、先生からのいろいろな説明や話題に耳を傾けるとともに、参加者も加わった話題提供等もあって、約 2 時間、カシ・シイ類、ヒマラヤスギ、メタセコイアやラクウショウ、カヤ、ヒノキなどの針葉樹、赤い実をつけたヒヨウタンボク、モチノキ、カツラ、ハゼノキ、ムラサキシキブ、イヌビワ、チドリノキなど、30 数種の樹木ツアーが瞬く間に終わりとなったような感じでした。

【インストラクターの先生（敬称略）】

堀内 孝雄（茨城県植物園緑のインタープリター・森林インストラクター）

柳原 高文（(一社)全国森林レクリエーション協会 主任研究員・森林インストラクター）

小菅 智彦（森林インストラクター東京会副会長）



精子発見のイチヨウ



樹木ツアーの状況（小石川植物園）

2 屋内プログラム

午後はプラザ・フォレストの会議室に移り、昼食後1時からいわゆる座学となりました。

(1) ご挨拶・子ども樹木博士活動について

当協議会の木平勇吉会長（東京農工大学名誉教授）から、本交流・研修会の開催の挨拶に続いて、子ども樹木博士活動の目的や取組について、これまでの経験等も踏まえて、懇切な説明をいただきました。何れにしても、子ども樹木博士のリーダーとして、型にはまらないで、いろいろ知恵を出し工夫しながら進めていただきたいとのことでした。

(2) インタープリテーション

講師の小菅智彦先生から、インタープリテーションとは何か、環境学習の場では自然・文化・歴史などをわかりやすく伝えること、事象の裏側にあるメッセージを伝える技術が大切であること。そして、①参加者の個性や経験と関連づけて行うことが重要であることから、対象となる参加者をよく把握すること、②単に知識や情報を伝達することではないことから、伝えるのは相手が興味を持ってからであること、③知識や情報の伝達を基礎とした啓発であることから、当日のテーマやコンセプトを定めること、④一部の事象から全体像を見せるものであることから、テーマやコンセプトに沿った演出を考えることが大切であること。

そのためには、「木を見て森を見る」として、季節にあったタイムリーなものを中心に「季」を見て森を見る、参加者の「気」を見て森を見る、時間管理をしながらタイミング「機」を見て森を見ることであり、さらには、木を「観」て森を「観」ることであると、熱くお話いただきました。

(3) 事例報告・樹木クイズ出題等

講師の柳原高文先生から、事例報告として、自らの経験も踏まえ、小さい幼稚園児や小学校低学年に対しては難しいことを求めるのではなく、一、二の三で声を合わせて教えた樹種名を呼ばせる、樹種の写真と名前を線で結ばせるなどのやり方が大切であり、間違っても解答を求めて泣かせてしまったりするような対応はしてはならないこと、小学校高学年や中学生などに対する対応は難しく、結局はほんとうに興味をもって参加している子どもたちを相手にして行うことになるなどの貴重なお話がありました。



屋内研修の状況（プラザ・フォレスト会議室）

また、樹木クイズの出題は、植物園から枝葉を採取することが難しいこともあって、試行としてパワーポイントにより行われ、午前中の植物園での樹木ツアーの中から19種が画像により出題されました。試行ということもあって画像にはいろいろヒントが加えられており、笑いを誘う楽しい出題でした。

(4) 樹木クイズの解答と解説等

講師の堀内孝雄先生から、パワーポイントにより出題された19種について、樹種名の解答と解説がありました。樹種の特徴や材の用途等はもとより、関連するエピソードなど、幅広い解説をしていただきました。

採点は参加者による自己採点で行われ、木平会長の特別の計らいにより、初段から10段までの特別の認定証をそれぞれ手にしました。

(5) 意見交換等

木平会長の進行により、参加者全員による意見交換等を行いました。いろいろな意見等が出され、小さい子どもを対象とした活動では、緊張の余りオシッコを漏らす子どももいたとのこと・・・。

参加者を見て、参加者をよく把握してやさしく・厳しくなど、相応しい対応が必要であるとのことでした。

最後に、木平会長から、子ども樹木博士活動についてはやり方について余り難しく考えないで、①自分が中心になったりあるいはグループをつくって始める、②リーダーは専門家でなくても勉強すればできる、③場所の設定や標本づくりは身近なところから、④開催はできるだけ定例化して、⑤参加者集めのためにも小学校等と連携する、⑥

1チームは10人程度とするなどの取りまとめと、活動の実施結果については必ず子ども樹木博士認定活動推進協議会へご報告いただきたいとのことがありました。

以上、概要を報告させていただきました。師走のご多用な中でご参加いただきました皆様、そして講師の先生方には、この場をお借りして、改めて厚くお礼申し上げます。(事務局)

● ● 事務局だより ● ●

◆平成24年度の子ども樹木博士認定活動の実施状況

平成24年11月以降に実施結果等をご報告いただいたものなどです。

実施日	実施団体等	都道府県	募集人員	参加人員	参加者
8.29	東京農工大学農学部	東京都	25	25	小学校教員
8.3	東京農工大学農学部	東京都	80	80	小学生と保護者
9.1	東京農工大学農学部	東京都	35	35	小学生と保護者
10.24	関東森林管理局(指導普及課)	群馬県	74	74	小学3年生
10.27	(社)日本遊戯関連事業協会	東京都	80	78	小学生親子
11.3	兵庫県篠山市役所(農都創造課)	兵庫県	40	40	幼稚園児～小学4年生と保護者
11.5	関東森林管理局(指導普及課)	群馬県	23	23	小学3～4年生
11.27	日本大学生物資源科学部森林資源科学科	神奈川県	98	98	小学4年生

(注) 報告等が参加人員のみの場合は募集人員も同数として、また募集人員のみの場合は参加人員も同数として整理

◆子ども樹木博士認定活動の実施結果についてご報告をお願いいたします。

実施団体等の皆様へのお願いです。平成24年度の子ども樹木博士認定活動の実施結果につきまして、まだご報告いただけていないものがございましたら、お手数をおかけしますが、ご報告いただければ幸いです。報告用紙はホームページからwordの用紙をダウンロードできます。また、報告用紙がない場合は、①実施団体名、②実施年月日、③募集人員・参加人員、④対象者・実施場所等を記載したメモで結構ですので、FAXあるいはメールなどによりお送り願います。(O)



子ども樹木博士のための「樹木ガイド」
(定価：500円(税込))



子ども樹木博士ニュース

2013年3月1日 No.50

子ども樹木博士認定活動推進協議会

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-7-12 林友ビル6階
一般社団法人全国森林レクリエーション協会内
TEL: 03-5840-7471 FAX: 03-5840-7472
E-mail: kodomohakase@shinrinreku.jp
URL: <http://www.shinrinreku.jp/kyokai/kodomokyoku.html>
<http://www.shinrinreku.jp/kodomo-n/main.html>